

大学史編纂課だより

第1号

2011年1月31日 発行

目次

調査収集

- ◇津山市「知新館」を訪ねて…………… 2
- ◇山田顕義事績調査…………… 3
- ◇法科の偉才山下博章の墓誌…………… 4

整理保存

- ◇加藤一雄関係資料整理…………… 5



山田顕義伯来岐120年記念

かざをりゑぼし むる・しる・あそび

10月2日(土)、岐阜市長良川でNPO法人「花の会」主催の山田顕義関連イベントが開催されました。今回は、岐阜市歴史博物館の特別展「鶺鴒宮内庁所属120年」の見学、「風折烏帽子」小唄と舞の披露の後、鶺鴒観覧船で120年前の学祖一行と同じく鶺鴒見学を体験しました。明治23年(1890)、長良川を訪れた山田顕義が鶺鴒の情景を詠んだ「かざをりゑぼし(風折烏帽子)」という小唄は、岐阜市では現在でも鶺鴒の時期になるとお座敷などで謡われ続けているそうです。

NPO法人「花の会」は、学祖作詞の「かざをりゑぼし」の小唄と舞を後世に伝えるべく記録映像の製作にも取り組んでおり、今回は学祖の岐阜来訪120年を記念して同イベントを開催したとのことです。杉山邸で「かざをりゑぼし」小唄と舞が披露された折には、見学者で部屋が埋め尽くされたほどの盛況ぶりでした。



津山市「知新館」を訪ねて

平沼騏一郎別邸



第2代総長
平沼騏一郎

昨年6月、日本大学第2代総長平沼騏一郎生誕の地、岡山県津山市内で関係史跡の調査を行いました。

「知新館」。私は以前その名を目にした時、学祖山田顕義が学んだ萩の明倫館、あるいは日本法律学校（本学の前身）初代校長金子堅太郎が学んだ福岡の修猷館といった、藩校を思い浮かべました。しかし、ここはそういった教育施設ではなく、かつては第35代内閣総理大臣平沼騏一郎の別邸であった建物です。

平沼騏一郎は慶応3（1867）年、津山藩士平沼晋の次男として城下の南新座に生まれ、明治5（1872）年、父に連れられて上京。津山藩出身の学者であった宇田川興斎・箕作秋坪に、英語や漢学などを学びました。帝国大学法科大学を卒業した後、司法官僚の道に進み、検事総長や大審院長を歴任。後年は、司法大臣・総理大臣など政治家として活躍することになります。

一方、明治30（1897）年には日本法律学校の講師となり、翌31年の財団法人化に際して、理事の一人に名を連ねています。そして関東大震災後の大正12（1923）年から昭和8（1933）年の10年間、日本大学総長を務め、本学の復興と発展に寄与します。大正13年には、大東文化学院（現 大東文化大学）の初代総長にも就任しています。

枢密院議長だった昭和12（1937）年、騏一郎を慕う者たちが古希を祝してその生家を買戻し、以前の姿



表門・塀

に復元して贈呈しました。彼はこの別邸をことのほか愛し、以後、帰郷した際には必ず滞在したようです。

騏一郎は昭和27（1952）年に没しましたが、別邸は25年に平沼家から津山市に寄贈されます。市は敷地内に土蔵を新設して展示施設とし、翌26年から62年まで「津山郷土館」として、考古や藩政資料などを公開しました。平成元（1989）年からは現在の状態となり、「知新館」と命名され、主屋はコミュニティー施設として市民のサークル活動などに利用され、土蔵の中には、騏一郎と兄淑郎（法学博士・早稲田大学総長）の書や、津山での写真が展示されています（見学は事前連絡が必要—津山市文化振興課）。

なお、江戸時代の武家屋敷の建築様式を再現した表門・塀・主屋などは、国の登録有形文化財になっています。（高橋）



庭から見た主屋

山田顕義事績調査

【京都 7月26日】

鳥羽伏見の戦いでは、山田顕義は長州藩の「諸隊駆引役」として、先鋒部隊を率いて薩摩藩とともに幕府軍と戦いました。戦場となった鳥羽・伏見街道は、現在では脇街道となっていますが、当時大阪から京都への進軍を防ぐためには、この二街道を抑えることが必須でした。長州藩の部隊は主に伏見街道を主戦場として、伏見稲荷の北の東福寺を本営としました。

東福寺より伏見街道を南下し、京阪電鉄伏見桃山駅付近に御香宮神社があります。戊辰戦争時、この辺りに薩摩藩の砲台が築かれ、新撰組や会津藩士が立て籠もっていた伏見奉行所を砲撃してこの方面の戦が始まりました。その他にも伏見激戦地の京橋付近、鳥羽街道沿いの史跡踏査も実施しました。鳥羽伏見の戦いにおける山田顕義の動向については、出征した人々の回顧談のほかは、あまり詳細な資料が残されていません。今後、今回の史跡踏査の情報をもとに、鳥羽伏見戦時の山田顕義の動向について探っていきます。（松原）



東福寺内の退耕庵。戊辰戦争殉難者の菩提所となっている



御香宮神社の本殿

【熊本 10月9日～10日】

全国大学史資料協議会総会・全国研究会参加のため熊本に出張した折、西南戦争戦跡及び学祖関係資料の調査を実施しました。熊本市立熊本博物館では、山田顕義が西南戦争時に詠んだ漢詩の書幅を撮影し、その後、同博物館米村副館長と大浪学芸員の案内で博物館内を見学させていただきました。

西南戦争の際、山田顕義は熊本城を攻める西郷軍の背後を衝くため、別働旅団を率いて八代に上陸します。八代駅から電車で20分ほどのところに日奈久温泉があり、近くの日奈久漁港付近には「官軍上陸之地」碑が建立されています。しかし、現地の観光案内板によると、当時の海岸線は現在よりもかなり内陸にあったようで、官軍上陸地の碑がある場所は、実際の上陸場所とは少し離れているようです。些細なことですが、現地を訪かなければ分からない事柄をまたひとつ確認することができました。



山田顕義が本営とした慈恩寺（八代市塩屋町）

『別働隊第二旅団征討略記』（防衛研究所図書館蔵）には、山田顕義らは明治10年3月24日に八代に上陸し、翌25日、「本陣ヲ鹽屋坊慈恩寺ニ張ル」と記されています。これは、現在の八代市塩屋町にある慈恩寺のことですが、この慈恩寺の門前には、「官軍（衝背軍）別働旅団本営跡」という案内が掲げられていました。また、地元の方に慈恩寺の近くに官軍墓地があることもご教示いただきました。

今後も機会があれば西南戦争史跡・資料について調査を進めていきたいと思います。（松原）

法科の偉才山下博章の墓誌



山下博章（大正15年頃）

夜間の法律学校として出発した日本大学は、戦前は苦学して法曹界に進む人たちが多くいました。本学教授・弁護士の山下博章もその一人でした。岡山県に生まれた山下は、大正7（1918）年に本学法律科を卒業しました。優秀な成績で弁護士試験に合格し、

大正10年に民法の研究のためドイツに留学しています。帰国後に教授に就任し、教鞭をとるかたわら、『物権法論』『民法講義』『物権法概要』『担保物権法論』等を相次いで刊行しました。

山下について、『日本大学新聞』（第174号）の「我等の教授列伝・法科の巻（3）」は、「彼は全くの天才——^{かつ}嘗て高等試験委員から、『日大出身の受験者で^{とて}迎も民法のよく出来る学生がゐるが、あれア一体どんな人物かね？」と問合せられて、初めてそれが我が山下師だと判り、今更の如く駿馬のプライスレスに舌を巻いた伯樂ならぬ学校当局は、喜び慌て、帰朝後の教授就任を約束に直ぐさま独逸留学を命じたのだそうだ。（中略）帰来型の如く本学に専属教授となり、民法と独法、民事研究を掌る側ら、矢継早の民法著作を試みて瞬く間に数巻の民総、物権、債権論を刊行し、先蹤の碩学をして悉く唾然たらしめたのだ。さもあらん彼には微塵も御用学者らしい所がない。後生大事に先人の学説を祖述するやうな^{いんちき}淫稚氣教授とはまるで違ふ。」と記述しています。

山下は母校を愛する気持が強く、学生の評判も高かった。昭和5（1930）年には法文学部学監に就任し、同じ時期にドイツに留学していた森本富士男とともに、日本大学の将来を担う人材として囑望されていたのです。しかし、昭和初年から「総合大学のあり方」をめぐって混乱していた学内を円滑化させるため、昭

和8年に平沼騏一郎が総長を辞任すると、頑固一徹な「備中人」らしくともに本学を去っていきました。その後は弁護士として活動し、戦時下の言論統制の厳しい時代に、法の正義を実現すべく人権擁護問題に取り組みました。

子息山下龍二氏（名古屋大学名誉教授）が編集した『戦時下の人権擁護—弁護士山下博章の論争—』（研文社）を読み、郷里に墓所があることを知りました。昨年6月に岡山県に調査に行く機会を得たので、浅口市鴨方町六条院東にある墓所を訪れることができました。墓所は静かな山里にあり、墓誌には以下のように刻まれています。

浄光院博量章顕居士

俗名山下博章氏ハ六条院村東字地頭明山下忠兵衛氏ノ長男トシテ明治三十一年生ル、東都二遊学シ苦学力行日本大学ヲ首席ニテ卒業ス、在学中弁護士試験ニ合格ス、大正十年独逸ニ留学、大正十三年帰国ト共ニ日本大学教授トナリ、「民法講義」「担保物権法論」等著ハス所多シ、昭和八年弁護士トナリ人権擁護・著作権保護等ニカヲ尽シ法曹界ニ貢献スル処少ナカラズ、昭和十八年十二月五日病没ス、享年四十五歳

墓誌は近くにある明王院（天台宗）の大僧正の撰文によるもので、刻まれた山下の経歴を見て、日本大学を去ってもなお母校を愛する気持ちが感じられました。

（小松）



墓誌（岡山県浅口市）

加藤一雄関係資料整理

大正13(1924)年、本法法文学部卒業後講師となり、戦前は法文学部助教授兼学監、終戦直後の昭和20(1945)年に法文学部教授、翌21年本部教務部長に就任、その後世田谷予科長・法文学部長を務め、新制大学となって法学部長・文学部長を務め、また、昭和26年～44年までの長きにわたり本学理事も歴任した加藤一雄(平成4年没)は、一方で草創期の大学基準協会常任理事・日本私立大学協会常務理事・日本私学団体総連合会常任理事・大学設置審査会委員等の要職に就任するなど、戦後の教育制度改革の中心に位置し私学教育振興に尽力しました。

加藤一雄関係資料は、上述の大学基準協会・日本私学団体総連合会・私立大学協会・大学教授連合等における諸会議資料を中心としています。つまり、加藤が各役職在任中の理事会・委員会開催時の配布資料であり、いわば「個人文書」の範疇にある資料群になる訳ですが、時代背景を考えればたいへん貴重な資料といえます。

当課にこれら資料が保管された経緯は、加藤の教え子である吉田徳三郎元法学部教授(名誉教授、元中部学院大学教授)が加藤から預けられたものを、定年を期に法学部安藤忠教授に託しました。安藤教授はこれを図書館に保管されていましたが、創立100周年記念事業の一つである日本大学百年史編纂委員会委員として大学史に係わったことから、先頃これら資料を当課が引き継ぐことになったのです。

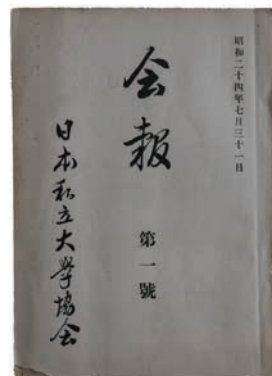
現在、仮目録を作成していますが約1000タイトルを数えます。今後、詳細目録の作成に取り掛かりますが、問題なのは、資料のほとんどが終戦直後の昭和21年～27年頃までに集中し、紙(洋紙)も機械パルプで作られたザラ紙などの下級紙が多く、紙の劣化が顕著なことです。

紙の劣化の原因には、温度・湿度の変化、光、虫やカビなど微生物によるものもありますが、主たる原因は紙の酸化です。紙の製造過程で、インクの浸透性をおさえ、裏うつりや滲みを防ぐためにサイズ剤が使われています。サイズ剤の多くにはロジン(松脂)や硫

酸礬土(硫酸バンド)が使われていますが、パルプに定着させるのに一番よいのが硫酸アルミニウム(硫酸バンド)なのです。硫酸アルミニウムは紙の中で加水分解して硫酸を生じ、紙を酸性にして紙の繊維であるセルロースを傷めるため、繊維が切断されポロポロになってしまうのです。また、酸性化した紙は、経年とともに保存環境の影響によって茶変色や亀裂が顕著となっています。

以上は、一般的に説明される紙の劣化の原因ですが、さらに、多くの資料は大きさ・形が区々のホッチキスで綴じられていて、錆付いているものもあれば、2枚程度を綴じたものもあり、資料を破損しないようにホッチキス針を除去していかなければなりません。

このように、資料整理は原資料の保存を考えながら進めていくことになります。(田淵)



「私学団体総連合」と手書きの背文字があるファイルに挟み込まれていた、日本私立大学協会『会報』第1号 昭和24年9月20日発行

全国大学史資料協議会2010年度総会・全国研究会（熊本大学）

全国大学史資料協議会は、「大学史」に関わる部署に勤務する公私立大学・個人会員で構成される協議会です。会員は東西の部会に分かれ、現在、東日本部会70校・30個人、西日本部会36校・10個人を数えます。本学は、協議会の前身である関東地区大学史連絡協議会（昭和63年創立）時代から常任委員校として参加しており、現在は東日本部会幹事（運営委員・事務局）を務めています。

毎年10月には、東西両部会が集い総会及び全国研究会を開催していますが、本年度は西日本部会が担当となって、10月6日（水）～8日（金）の日程で熊本大学放送大学熊本学習センターを主会場として開催されました。

初日は、総会のあと、放送大学熊本学習センター所長崎元達郎氏（前熊本大学学長）による「熊本大学の歴史的財産とユニバーシティ・アイデンティティ」と題した記念講演があり、その後、「五高記念館」（熊本大学は旧制第五高等学校を母体としている）を見学しました。2日目は全国研究会で、本年度のテーマは「大学史編纂・史料保存と自校史教育」で、次の3本の報告がありました。

①三澤純氏（熊本大学文学部准教授・熊本大学60年史編纂室副室長）

「熊本大学の歴史的自己認識と自校史教育」

②近藤健一郎氏（北海道大学大学院教育学研究院准教授・同大大学文書館運営委員会委員）

「自校史教育の現状報告—北海道大学での『北海道大学の歴史』のこと—」

③佐伯裕加恵氏（神戸女学院史料室）

「史料活用例としての神戸女学院大学における自校史教育」

3名の報告後、パネルディスカッションがあり、ゲストとして岩手大学評価室准教授大川一毅氏に加わっていただき、活発な討論がされました。この間、熊本大学60年史編纂室・資料室、工学部研究資料館（建物と展示機械の内11基が重要文化財に指定されている）も見学しました。

最終日は、熊本大学薬学部の熊薬ミュージアムを見学後、移動して熊本市歴史文書資料室を見学、全日程を終了しました。



母校に関する資料が皆さんのそばに眠っていませんか

資料・情報提供のお願い

大学史編纂課では、「日本大学史」に関する資料を広く収集しています。本学の歴史・学生生活・校友の足跡等のようなことでも結構ですので、お気軽に編纂課（TEL 04-2996-4555 FAX 04-2996-4592）までご連絡ください。

※保管に困っている資料や物品がありましたら、ご一報ください。

日本大学工業学園への行進—昭和5年度入学者のために—

「工学部 工学部予科 専門部工科 高等工学校 工業学校 工学校」の入学案内です。昨年90周年を迎えた日本大学理工学部は、その前身の工学部（旧制）を筆頭に、旧制教育制度下で工業系の中等・高等各課程の教育機関を揃えていました。

昭和4（1929）年はその6機関すべてが揃った年で、「日本大学工業学園」と総称していました。現在と同様、大正末年から高学歴者の就職難が社会問題化しますが、本学の理工系分野は高い就職率を維持していました。

表紙のデザインは当時の工学部一号館で、橙色は工科のスクールカラーです。



校友松田源治の写真アルバムから

日本大学からは多くの政治家が生まれていますが、松田源治もその一人です。松田は、明治8（1875）年10月に大分県宇佐郡柳ヶ浦（現宇佐市）に生まれ、27年に上京し、苦学しながら東京法学院（現中央大学）や日本法律学校で学びました。29年に日本法律学校を卒業すると、翌30年には文官高等試験・判検事登用試験に合格し、検事代理等を経て弁護士となりました。

明治41年の第10回衆議院総選挙で初当選し、以来昭和7（1932）年まで9回当選しました。この間、立憲政友会幹事、内務省参事官、衆議院副議長、政友本党総務、民政党総務に就任するなど要職を歴任しました。そして、昭和4年に成立した浜口雄幸内閣で拓務大臣（植民地統治・移植民等を管轄）に就任し、本学出身で初めての大臣となりました。8年には民政党幹事長に就任し、その政治的手腕は高く評価されました。9年、岡田啓介内閣の文部大臣に就任しましたが、11年2月に62歳で急逝しています。

松田源治の写真アルバムは、表紙が布張りのクラシックな装丁で、写真は99枚あります。松田の肖像写真をはじめ、大分県人会、始球式・ラグビーの観戦（文部大臣時代）、炭鉱・樺太の視察（拓務大臣時代）などのスナップ写真。そして松田の葬儀の写真も含まれています。松田の情報が少ない折に入手することができたのは幸いでした。



達磨さんは起きたくない？

階段の中ほどで俯いている人物は高橋是清。高橋の左隣が岡田啓介総理大臣、高橋の右は町田商相、そして松田源治など官邸前に閣僚が揃っています。

昭和9年7月、岡田内閣発足後、大蔵大臣に就任した藤井真信が11月に病気で辞任し、共立学校時代の教え子の岡田から懇願され、齢81になった高橋が6度目の大蔵大臣に就任したのです。高橋は、そのふくよかな容貌から「達磨さん」と呼ばれ親しまれていました。

刊行にあたって

大学史編纂課は、日本大学史に関する資料の調査・収集を行い、資料を整理・保存し、未来の日大人へ伝えていくために活動をしています。

日本法律学校以来、現在まで120年間にわたる本学の長い歴史、そしてこれからも続く本学の未来のために、調べるべき事柄はたいへん多くあると考えています。そうした日々の活動で得られた資料や情報を紹介する「大学史編纂課だより」を発行（年2回）することになりました。

この「大学史編纂課だより」によって、当編纂課の活動を知っていただくとともに、本学の歴史をより身近に感じていただく一助となれば幸いです。

活動報告

平成22年4月～12月

○出張・調査

- 5月19日 豊川海軍工廠（愛知県）
- 6月15日 額田記念東邦大学資料室（東京都）
- 6月22日～24日 平沼騏一郎・額田豊・山下博章関係事績調査（岡山県）
- 7月26日 山田顕義事績調査 京都鳥羽・伏見戦争調査（京都府）
- 10月2日～3日 山田顕義事績調査（岐阜県）
- 10月8日～9日 山田顕義事績調査（熊本県）
- 11月26日～28日 山田顕義事績調査（山口県山口市・萩市）
- 12月20日 山田顕義事績調査（東京護国寺山田顕義墓所）

○展示・普及

- 7月18～19日 入試説明会（日本大学会館）
- 7月21日 新規採用大学教員セミナー（日本大学会館）
- 9月18日 入試説明会（日本大学会館）

○講演

- 4月9日 日本大学東北高等学校（磐梯熱海ホテル「華の湯」）
- 4月14日 日本大学豊山中学校
- 4月16日 日本大学豊山高等学校（同校体育館）
- 5月22日 通信教育部（軽井沢研修所）
- 6月12日 日本大学三島高等学校（国際関係学部8号館講堂）
- 7月28日 国際関係学部職員研修会（同学部15号館）
- 12月10日 付属高等学校事務担当者研修会（日本大学櫻丘高校）
- 12月16日 付属高校・中学校等教員採用内定者導入研修（日本大学会館）

N. 大学史編纂課だより

第1号

2011年1月31日 発行

編集・発行 日本大学広報部大学史編纂課
〒359-0003 埼玉県所沢市中富南4-25
TEL 04-2996-4555 FAX 04-2996-4592

印刷 株式会社 文成印刷

(2011.1.31 5000)